

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたくないとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

当院における術中神経モニタリング件数の推移とその内訳の調査

1. 対象となる患者さん

2008年1月～2024年6月の間に当院で以下に挙げる手術を受けられ、かつ術中神経モニタリングを併用して外科的手術を受けられた患者さん

【脊椎脊髄手術】

脊椎固定術、脊柱側弯症矯正術、脊髄腫瘍摘出術、係留解除術、選択的後根切除術

【開頭手術】

開頭クリッピング術、開頭腫瘍摘出術

【血管内治療】

コイル塞栓術、ステント内挿術

【頭頸部手術】

頸動脈内膜剥離術、甲状腺癌摘出術

【心臓血管外科手術】

大動脈人工血管置換術、大動脈ステントグラフト内挿術

【婦人科手術】

広汎子宮全摘出術

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 中央臨床検査部 宮林 知誉

3. 研究の目的と意義

術中神経モニタリング (Intraoperative Neurophysiological monitoring :IONM) は、手術中の予期せぬ神経の損傷を防ぐために、リアルタイムで神経機能を監視する技術です。

近年、手術の安全性と成功率を向上させるため、その必要性がますます高まっており、特に脳神経外科、脊椎脊髄手術、耳鼻咽喉科手術、血管内治療など、神経損傷や脳虚血のリスクが高い手術において、IONM の役割は欠かせないものとなっています。

当院では 10 年以上前から IONM を導入し、以降年度ごとにその実施件数は漸増しています。また、これまでに 3000 人を超える患者さんが当院において IONM の監視下で手術を受けられました。この間に、新たな手術技術が適用され、IONM の多様化が生じました。

本研究では、IONM 施行件数の術式別の年次推移を長期的に調査することを目的としています。本研究により、当院における IONM の利用状況の動向が明らかとなり、トレンドとなっている術式や IONM が特定され、教育の最適化や業務の効率化を図ることができま す。また、件数の増減と IONM に従事している要員数の関連が明らかとなれば、手術件数に見合った適切な人数を配置するなどの対応ができ、いかなる時も安全な医療を提供できる環境の構築が期待できます。

4. 研究の方法

当院の麻酔科学教室で管理している IONM のデータベースや、患者さんのカルテから情報を収集し、術式別の IONM 件数の年次推移やモニタリングに従事している要員数の変遷を調査します。

5. 使用する情報

診療情報：診断名・年齢・性別・既往歴

手術時情報：術式、施行した IONM の種類

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2029 年 12 月 31 日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 中央臨床検査部 宮林 知誉

〒634-8522

奈良県橿原市四条町 840 番地

TEL：0744-22-3051（内線：4240）対応時間 8 時 30 分～17 時

E-mail：miyabayasi@naramed-u.ac.jp